

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・一番はたばこの値上げだが、残暑もまだまだ期待できそうだし、秋の観光シーズンや地元の祭り、花火大会とイベントが目白押しなので、数字は期待できる。
		家電量販店（店長）	・エコポイント制度終了と共に、年末に向けて駆け込み需要が予想される。エコポイントの動向で販売量は左右される。
		一般レストラン（経営者）	・来客の中で予約客が特に増えていることが明るい材料である。
		テーマパーク（職員）	・現状維持に加えて、冬場における新規投資の関連イベントによる集客効果が期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・今月と同じではこの先真っ暗であるが、暑さも収まるだろうし、新製品が出てくれば少し良くなる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・夏商戦は終わるが、秋からは年末商戦で、エコポイント関連商品が非常に盛り上がる。
		衣料品専門店（統括）	・秋に向けて催し物を実施するところが多いため、今後1、2か月は少しは期待できる。
		自動車備品販売店（経営者）	・かなり長い期間消費が低迷しているため、それが回復した後は、ある程度の厚みを維持していくであろうから、今までよりはわずかに良くなっていくはずである。
		観光型ホテル（営業担当）	・今年度の近隣観光地への来客数は前年比で減少しているものの、秋から冬にかけては、県を挙げての観光キャンペーンもあることから、来客増に期待している。
		通信会社（経営者）	・9月からの販売量は例年上がり、既に顧客からの見積依頼等も増えている現状から、来月以降の販売量は上昇する。
	変わらない	一般小売店〔家電〕（経営者）	・仕事が出てきたところと減少しているところ様々で、全体的には変わらない。エコポイントも消費者に馴染んできたようで、ポイントのあるうちにテレビの買換えを意識しているようであるが、価格競争が激しく小売業者は依然厳しい。
		百貨店（営業担当）	・売上は前年同月比マイナス基調で推移している。円高、株安の影響は今後も出てくる。
		百貨店（営業担当）	・夏場は猛暑により夏物関連に動きがあり、売上も好調に推移して来たが、厳しい残暑が続くとされる9月の秋物動向が懸念される。
		百貨店（販売促進担当）	・婦人服等、一部については回復基調にあるが、消費全体を押し上げる要因となっているわけではない。景気の底打ち感はあるが、プラスに転じる要素は現時点では見当たらない。
		百貨店（販売促進担当）	・輸出関連でけん引されてきた明るい兆しが円高により、今後の見通しを大きく変える懸念材料となっている。円高が長引くことになれば悪影響ばかりが報道され、その景況感の悪さから個人消費にも悪影響を及ぼす可能性は否めない。
		スーパー（経営者）	・小売の競争状況は変わらない。
		スーパー（総務担当）	・社会全体に安定感がなく、客の動向を見ていると、安定してゆっくり買物をするのではなく、チラシを打ったら、安いものがあれば買うという様子で、特に大きな変化はない。
		スーパー（経営企画担当）	・デフレや勤労者の所得低迷という経済の基調は変わらないし、円高の不安も考えると良くなるとは考え難い。
		コンビニ（経営者）	・よほどのヒット商品でもない限り、変わらないと考える。
コンビニ（店長）		・夏は食欲の関係であまり固形物が売れなかった。これから先も、客は買うものを選択することが顕著になると考えられるため、結局変わらない。	
衣料品専門店（店長）		・秋冬商材の実需時期であるが、円高や株価下落など日本経済が低迷する流れの中で、消費マインドはますます低下して、景気が良くなるとは考えにくい。	
衣料品専門店（販売担当）		・先月は幾分、良くなるような感触があったが、今月に入ると、財布のひもは固い状況にある。9月一杯、真夏の状況が続くという予報もあるが、これも悪い影響を与えている。	
乗用車販売店（販売担当）		・輸入車に関しては良くなる要素が全く無い現状で、新車が売れない分、メンテナンスの修理関係で売上を補っていくパターンは当分の間変わらない。中古車はそこそこ出ているが、新車が売れず、よほど景気が良くなる要素でもない限り、全く変わらずこのまま推移していく。	
住関連専門店（開発業務責任者）	・将来に対する不安材料が多く、消費につながらない。また、円高や株価の低迷もある。		
住関連専門店（仕入担当）	・9、10月も暑さが続く予報であり、冬物の売れ方は遅れる見込みである。それに代わる商材は見つからず、デフレ傾向も当面続くと思われるので厳しい見通しである。		

都市型ホテル（支配人）	・一般客の動きは若干悪くなると思うが、新空港のオープンによってアジアからの団体が増えているので、相殺されて変わらない。
通信会社（総務担当）	・企業の変動にかかわらず、先行きの不透明さから家計の動向は低迷している。
遊園地（職員）	・8月度の集客は前年を上回っているが、一般家庭の所得減少によるレジャー支出抑制の影響は依然大きいものと予想され、今後についても楽観視はできない。
ゴルフ場（業務担当）	・2～3か月後は引き合いが結構きており、土日のコンペモリピーターの引き合いがきているので、前年並みに持っていける。ただし、単価は若干下回る。また、2～3か月後の早期予約による割安料金への反応が敏感に出ているので、売上が伴っていくか少し微妙なところである。夏の猛暑の関係で、総体の売上も落ち、入場者も少なくなっているのが現状であるが、今後秋のシーズンに向けて持ち直してくる。
美容室（経営者）	・最近、近場のゴルフ場が倒産したことを取引先のゴルフ場の担当者から聞いた。食事、ジュース付のプレー代も下げているが、思うように客が入らないことから、まだ節約志向は続いている。
その他サービス〔清掃〕（所長）	・円高や株価の新聞報道等を見ても景気回復の状況にはなく、身近なことでも給料が増える状況にも無いため、消費等を抑える傾向は変わらない。
その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・当商業施設内の映画館が上向きに転じており、また、ホテルにおいても客室の稼働率が例年より良い状況で、それらの来客数が当駐車場に反映され、利用客数は上向きに転じているが、単価が横ばいなので、変わらない。
設計事務所（所長）	・いろいろと廻っているが一向に仕事が無いと下請から聞いている。確かに町にクレーンは見えないし、中心街からは、また有力店舗が撤退している。撤退は今年6店舗目である。
住宅販売会社（経営者）	・デフレ現象が止まってくれないことには不動産価格も上がらないし、取引も活発化しない。
住宅販売会社（従業員）	・住宅エコポイントやフラット35Sなどの政策の効果が多少は感じられるものの、業界全体の厳しさは変わらない。
やや悪くなる	
商店街（代表者）	・秋の観光シーズンに向けて、心配の種である野菜、果物、きのこのでは異常気象のために良くない。
一般小売店〔乳業〕（経営者）	・工業団地内企業の厳しさが漏れ伝わってくる上、消費意欲の伸びる要因は見当たらないので、消費はまだまだ下がっていく。
百貨店（総務担当）	・当店は市内の昔の繁華街の一角にあるのだが、現在では閉店している商店が多く、歯抜け状態に歯止めが掛からない。高速インターチェンジに近い別エリアの商店街では、新店舗ができるなどますます活性化しており、客は郊外に出向いている。当店には人気商品が1銘柄あるが、それがあと何か月かで入荷できなくなった場合を考えると、ますます先行きは不安である。
百貨店（営業担当）	・円高と株の下落について考えると、非常に厳しい。今後は秋冬の展開になるので、いかに店に来てもらう行動をするかによって、また結果が違ってくる。
スーパー（店長）	・近隣の大型スーパーが安売り店に業態変更して開店する予定があるが、当店の競争に弱い体質が出そうで、取り戻すには3か月はかかる。
スーパー（総務担当）	・円高による輸出関連の落ち込みが懸念される。
スーパー（統括）	・メモを持った男性客が、5～6月ごろは減少していたものの、この1か月ほどでまた増えてきており、衝動買いを抑制する傾向が顕著である。先行きの不透明感に対する生活防衛への対応が素早くなってきている。
コンビニ（経営者）	・10月からたばこが値上げされるので、それに向けて9月には仮需要があるが、10月以降は大分需要が落ちてしまうのではないかと懸念している。それをカバーできるものが今のところ見当たらない。
コンビニ（経営者）	・たばこが10月から増税で値上がりするので、たばこを買いに来る客が減り、景気はやや悪くなる。
乗用車販売店（営業担当）	・若い人の車離れと平均年齢の上昇により、自動車の販売はより一層厳しくなる。
乗用車販売店（販売担当）	・客は9月までの補助金を目当てに車を購入しているが、その陰りが見え始めている。メーカーは補助金が切れた後のことを考えて、独自の販促をやっているが、補助金が無くなる2、3か月後には、かなり販売量が落ち込む。

	高級レストラン（店長）	・実体経済で回復の実感はなく、円高、株安など市場も不安定であり、悪化の要因が見当たらない。	
	一般レストラン（経営者）	・秋は宴会予約が少なく、売上減少時期である。加えて景気動向が心配なため外食を控える傾向である。	
	都市型ホテル（経営者）	・自動車産業及び電気産業に依存した町であるため、円高の影響により以前に増して下請いじめが行われ、現在より厳しくなるのではないかと予想している。	
	旅行代理店（副支店長）	・為替相場、株価の下落は、レジャー需要を引き下げる感がある。通常、円高になれば、海外需要の大きな伸びに期待できるが、それ以上に国内景気の冷え込みのほうが大きい。	
	旅行代理店（副支店長）	・円高、株安傾向であるため、輸出企業のダメージが心配である。秋から冬に旅行を計画している企業や個人に受注のばらつきがあり、円高は海外旅行の受注が増加すると言われていた。ここにきて先行き不透明感が強まりストップし始めた。国内旅行は猛暑のため集客が悪く受注への期待が薄い。	
	ゴルフ場（従業員）	・来場予約が昨年よりも減少している。	
	ゴルフ場（支配人）	・長期の天気予報によると9月は残暑が続くことから、依然として客足は遠のいている。また、予約のスピード感が無くなり、近隣のゴルフ場では低価格化が依然継続し、デフレスパイラルが続いている。	
	設計事務所（経営者）	・これといって景気が良くなる材料もなく、最近の状況からみればマイナスの方向になる企業のほうが多い。	
	設計事務所（所長）	・世界的な経済悪化と円高、株安が追い討ちを掛け、今よりもっと悪くなる。	
	住宅販売会社（従業員）	・猛暑による一時的な別荘見学者の増加はあるものの、購入には至らない事例が大半であり、高額消費の低迷は続く。	
	住宅販売会社（経営者）	・贈与税の控除が緩和されているが、これも一時的なものであり、抜本的にデフレが脱却できない。さらに悪い景気になるような印象さえある。	
	悪くなる	コンビニ（経営者）	・7月末から猛暑が続いており、来客数も大分増えてきたが、現在の円高、株安が経済を非常に悪くするので、今後は悪くなる一方である。
		コンビニ（店長）	・たばこの大幅な増税が決定しているため、売上は現在、比較的好調に推移しているが、10月にはこの反動が大幅に出ると考える。
		衣料品専門店（経営者）	・商店街の集客力があまりにも無くなってきている。商店街の再開発を考えるが、なかなか集客増に結び付かない。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金が終了するため、悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー購入補助金終了の反動で、来客数、販売量が減少してしまうため、悪くなる。
		一般レストラン（経営者）	・一部に良い企業があると思うが、ほとんどの中小企業は良い経済状況とは言えない。異業種の人から話を聞いてもそういう話が聞かれるので、良くなる傾向は全くない。
企業動向関連	良くなる		
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・9月に入ると新酒が出回ってくるので、業界全体が活性化してくる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・建設機械の部品は最盛期の10分の1まで下落したが、現在は35%ぐらいまで回復している。ただし、エコカー補助金が終了した後の状態がどうなるのか不安が残る。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・年末商品の受注見込みは多少あるが、最近の円高傾向も手伝って、取引先店舗では海外客の需要も減少気味である。新商品の投入も試みているものの、販売の見込みは予想すら立たない状態で、大変厳しくなる一方である。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・明るい見通しが全然立たない。
		金属製品製造業（経営者）	・仕事が安定しておらず、7、8月はまあ良かったが、9月は仕事が少なくなり、10月にはまた戻ると得意先から言われている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・品物が売れないし、良いと思うことが特に無い。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・このところ若干落ち気味であり、受注量等は2、3か月低調なまま変わらない。
		輸送業（営業担当）	・景気回復の材料はなかなか見つからないが、残暑で時期が多少ずれたとしても、季節商材等の入替えは行うので、例年の物量は確保できそうである。しかし一方で、各荷主から運賃値下げ等の見積り依頼も出ており、取引の無い所も多く出てきている。いかに安い所を見つけるかという状況になっており、連鎖的に経営が厳しくなってくる。

	<p>広告代理店（営業担当）</p> <p>新聞販売店〔広告〕（総務担当）</p> <p>経営コンサルタント</p> <p>社会保険労務士</p> <p>司法書士</p>	<p>・これ以上悪化しようがないくらい、地方広告業界は冷えている。</p> <p>・最近のマンション販売チラシでは、1千万円を切る販売価格物件も数件見受けられる。これを目玉商品と見る見方もあるが、資金面で売り急いでいるとの情報もある。首都圏のマンション事情と若干異なるが、経済政策が見えない、回復の実感がない、というのが大方の話である。</p> <p>・異常な円高傾向の中で、輸出企業依存型の中小下請企業の先行きは危うい。これに対し、内需型企業と環境関連企業には一部設備投資や販売活動などに緩やかな動きがある。</p> <p>・今回の円高により、好調な輸出に支えられていた売上部分が不透明になって来ている。</p> <p>・先行きに向かっての事業相談があまりないので、少なくとも良くなることはない。</p>	
やや悪くなる	<p>食料品製造業（製造担当）</p> <p>出版・印刷・同関連産業（経営者）</p> <p>化学工業（経営者）</p> <p>一般機械器具製造業（経営者）</p> <p>電気機械器具製造業（経営者）</p> <p>電気機械器具製造業（経営者）</p> <p>輸送用機械器具製造業（総務担当）</p> <p>その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）</p> <p>金融業（役員）</p> <p>金融業（経営企画担当）</p> <p>金融業（調査担当）</p> <p>金融業（総務担当）</p> <p>その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）</p>	<p>・景気の先行き不透明感と、円高の日本企業における差損によりじり貧になり、企業経営もかなり厳しくなり、物の売れ方が鈍くなる。</p> <p>・相変わらずの薄利である。</p> <p>・受注がなく、メイン商品の10月以降の生産予定が組めない。改めてダイレクトメール等で顧客にアピールしているが、反応は極めて鈍い。</p> <p>・中国向けの建設機械用部品の仕事が好調であるが、他の分野で仕事の伸びは思いのほか良くない。9月から自動車メーカー各社の生産調整が予定されていることから、全体としてはやや悪くなる傾向にある。</p> <p>・自動車は恐らく、9月中ごろくらいまで高原状態が続き、10～12月は落ちていくと考える。他の部署の仕事であるが、10、11月前後に円高の余波が来て、値下げもしくは受注減になると考える。コスト競争では限界に来ており、コストダウンはきついので、相当苦しくなる。</p> <p>・先行きになると不安が大きく、周りの同業者も先が読めないと懸念している。</p> <p>・主力メーカーからのコストダウン要請が非常に強くなっている。受注量はある程度確保できるが、収益は悪化傾向にある。今後の受注量確保についても輸出が主力であるから、非常に危機感を持っている。</p> <p>・OEM中心の宝飾製造会社の中には、大手からクリスマス用の商品発注があり、売上も回復基調にある、ということもあるが、一般の小売店舗では在庫調整がすでに終わっているにもかかわらず、販売不振から仕入意欲がなく、また秋口に対しても悲観的である。宝飾業界全体の盛り上がり期待できない以上、回復は難しい。</p> <p>・取引先には製造業が数多くあるが、輸出関連業種で最近の円高が収益性の圧迫として悪く影響しそうだ。</p> <p>・円高の影響が製造業を中心とする輸出産業のみならず、観光業等への国内業種にも及ぶことが懸念される。</p> <p>・円高進行で鈍化の動きが早まっていると見られる。特に製造業の輸出関連業種への影響が懸念される。</p> <p>・契約の見直し、解約による売上減少が予定されているので、見直しはあまり良くないと取引先が話している。</p> <p>・現在の引き合い状況からみて、12月末までは厳しい状況である。引き合いは多いが、先延ばしされている案件が多い。客も投資に慎重である。</p>	
悪くなる	<p>食料品製造業（経営者）</p> <p>電気機械器具製造業（営業担当）</p> <p>不動産業（経営者）</p>	<p>・円高で輸入品、特に食品が安くなり、国内で一層デフレが進むと、国内農産物にも打撃を与え、国内自給率アップがますます難しくなる。また、製造業でも海外に拠点を移せる企業は本気で移り更に国内経済が悪くなる。</p> <p>・ここにきての円高、株安による更なる景気後退により、仕事量が減少し、それに伴う価格競争が一層激化するのではないかと懸念される。</p> <p>・個人貯蓄などがだんだんと出尽くす方向に行くような気がするし、円高への施策の方向性が見えないので、良くなる材料がない。</p>	
雇用関連	<p>良くなる</p> <p>やや良くなる</p> <p>変わらない</p>	<p>-</p> <p>人材派遣会社（管理担当）</p> <p>人材派遣会社（経営者）</p>	<p>-</p> <p>・派遣契約終了により取引が終了すると思っていたが、請負にシフトして契約が継続しているため、やや良くなる。</p> <p>・仕事はあちこちに出るのだが、人数が少なく短期的で、将来性がない。</p>

	人材派遣会社（社員）	・重要な取引先については当然予算立てをしているが、前年を少し下回る程度の予算立てをしているところが多いようである。基本的に予算立ては前年同月比ベースであるので、良くなる材料もなく、このまま推移していく。
	求人情報誌製作会社（経営者）	・極端な円高は良くなりつつある製造業にも打撃であり、派遣社員などの募集に慎重になる。
	職業安定所（職員）	・主要産業の製造業は、前年同月比115.8%と増加しているが、一般とパートの割合は、前年同月とほぼ同等の6対4の割合である。生産の回復が雇用情勢の改善をけん引していると考えられるが、本格的な回復にはしばらく時間を要する。
	職業安定所（職員）	・雇用調整助成金について、活用人数、活用日数は減少傾向にある。ただし、申請企業数は前月同様に推移し、秋からの活用相談が見られるようになっている。
	職業安定所（職員）	・求職者数は落ち着きを見せているが、求人数がいまだに鈍い動きのまま、企業側の採用意欲の高まりが表れていない。
	学校〔専門学校〕（副校長）	・例年以上に大学卒業見込の未内定者数が多いと感じる。中小企業で活発に求人活動を行っている企業もあるが、求職者とのミスマッチもある。求職者のより好み、企業の求める人材の育成なども必要である。
やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・夏物衣料関係が思ったより伸び悩んできている。秋物についてはまだ分からないが、見通しとしては横ばいか若干落ちるといふ周辺企業の様子である。野菜の高騰もあるので、この辺りも消費にかなり影響を及ぼすと考えるため、下降気味という見通しを立てている。
	職業安定所（職員）	・事業所に連絡を取っても、求人が出て来ず、求人開拓に回っても、パートは多少あるが、正社員の求人は本当に減っている状況にある。これは、将来の不安要素が多いためと思われる。
	職業安定所（職員）	・管内の主要産業は、産業機械や自動車の輸送用機械器具製造等であり、これらが円高等によって輸出等の影響を受けた場合、悪くなる。現在はフル稼働している企業でも受注量は減少していく。
悪くなる		